



風景街道便り

Vol.38 2026春

防災をテーマとした意見交換会を開催
奥能登絶景海道／
ふくしま浜街道ハッピーロード／
よりみち街道『中越』／
渥美半島菜の花浪漫街道

熊本と静岡に新たなルートが誕生
「しらぬひ風景街道」
「遠州三みち風景街道」

20周年に向けて、現場の想いを国に届ける！
(NPO法人日本風景街道コミュニティ)

風景街道がつむぐ『住んでよし、訪れてよし』の地域価値創造
(日本風景街道大学 宮崎本校)



目次

● 「日本風景街道 20周年に向けての提言」手交	1
● 「第4回 日本風景街道 全国意見交換会」開催報告	2
新ルート「ありあけ海道～トレジャーロード～」の登録	3
能登半島絶景海道の創造的復興に向けた基本方針の紹介	3
「奥能登絶景海道」の取り組み	4
取組紹介「ふくしま浜街道ハッピーロード」	4
取組紹介「よりみち街道『中越』」	5
話題提供「渥美半島菜の花浪漫街道」	5
意見交換 【テーマ：防災】	6
● 「第16回 日本風景街道大学 宮崎本校」参加報告	8
カリキュラム1日目（座学 @ 宮崎大学 創立330記念交流会館）	8
カリキュラム2日目（座学 @ 宮崎大学 創立330記念交流会館）	9
3日目（エクスカージョン）	9
● 新規ルート「しらぬひ風景海道」	10
● 新規ルート「遠州三みち風景街道」	11



「日本風景街道20周年に向けての提言」手交

令和8年3月18日、NPO法人日本風景街道コミュニティより、道路局長に対し「日本風景街道20周年に向けての提言」が手交されました。



国土交通省としては、20周年に向けて「もっとつながる風景街道」をキーワードに、今後10年間の風景街道の未来の姿について皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。



日本風景街道20周年に向けての提言(ポイント)

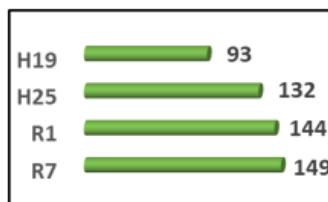


2026年3月18日
NPO法人日本風景街道コミュニティ

日本風景街道は令和9年度に20周年を迎える取り組みで、多様な主体が協働して地域資源を活かし149ルートを展開。
本提言は、その成果と課題を整理し、今後の方向性を示すもの。

1. 日本風景街道20年間の活動成果

- 日本風景街道は20年間、多様な主体が協働し、道路を軸に地域の景観保全と地域振興、観光振興を推進。
- 自治体境界や政策分野、官民分担論の枠に捉われない自由な活動が特徴で、地域の魅力やアイデンティティを育む成果を全国各地で創出。



日本風景街道のルート数の推移

2. 国土・地域の実情と近年の政策的動向

- 地域は人口減少・高齢化・災害頻発など深刻な危機に直面。
- 一方で、地方回帰やインバウンド観光の高まりといった潜在的な好機。
- 国は「地域・国土の存続」を重要課題とし、各省庁で地域生活圏や交通空白の解消、観光づくりなどの関連施策を打ち出し。



令和6年能登半島地震

3. 日本風景街道の意義と課題

- 日本風景街道は、国の政策課題を先取りした先駆的取り組み。
- しかし、国交省の関与が弱まり、一部の道路管理者はルート活動に積極的に関わっていないケースも。
- デジタル化・収益性・カーボンニュートラルなど対応不十分な分野があり、社会環境の変化への順応が必要。



日本風景街道「奥能登絶景海道」オリジナルグッズの企画・販売

4. 提言

日本風景街道20周年を機に、その意義と先進性を再確認し、課題を踏まえて取り組みを再構成・再加速することを提唱。

1) 国の重点政策への日本風景街道の積極的関与を進める仕組みづくり

- 日本風景街道は、防災・環境・観光・地域活性化など国の重点政策に貢献。
- そのため、国の政策の中に日本風景街道を明確に位置づけ、活動を支える支援体制と財源を整備。



「能登半島絶景海道の創造的復興に向けた基本方針」「道の駅」の集客強化のイメージバース

2) 日本風景街道の地域的活動とその広域連携を強化・推進する仕組みづくり

- 平時は地域の魅力の向上、非常時は復興を支えるソフト面での社会インフラとして機能。
- 全国ネットワークを強化し、情報共有・成功事例の展開・ルート間連携を推進。

3) 日本風景街道の中間支援・伴走支援の仕組みづくり

- 行政と地域をつなぐ中間支援組織が必須。
- 地整・事務所の積極的な関与を周知徹底し、職員教育を実践。
- 地域・道の駅・企業など、多様な主体が協力できる包括的枠組み。
- 地方協議会の機能を拡充し、継続的に活動を支える体制を整備。

4) NPO法人日本風景街道コミュニティの役割や活動の明確化と重点化

- 全国的な展開(政策提言・政策対話)と、各地域で目指す(モデル事例づくり)を分類し取り組みを支援。
- 制度上のパートナーとしての位置づけを明確にする必要。



日本風景街道大学の様子



「第4回 日本風景街道 全国意見交換会」開催報告

国土交通省道路局では、日本風景街道が2027年に創設20周年を迎えるにあたって、これからの取組の方向性について、検討を進めています。

この度、日本風景街道の活動に関係する方々の交流促進などを目的に、「防災」をテーマとした意見交換を令和7年12月23日(火)に開催しました。詳細につきましては、日本風景街道HP (<https://www.mlit.go.jp/road/sisaku/fukeikaidou/>) で公開しています。

水野環境安全・防災課長

- 前回の意見交換会では、キーワード「もっとつながる風景街道」を元に、道の駅、自転車、ほこみち、防災・復興、カーボンニュートラル、ネイチャーポジティブなどの幅広い政策と連携していく方向性について提案。
- 能登半島地震からの創造的復興について、12月に基本方針をとりまとめ、国・県・市町が連携して復興を進める体制を整えた。
- これまでの取組を「連携型」と呼ぶが、今後は官民での取組や国・自治体が伴走する「推進型」の取組も必要であり、20周年を皮切りに、新しい風景街道に取り組みたい。

石田代表理事（NPO法人日本風景街道コミュニティ）

- 創設当時の道路局長との対話を振り返り、熱い想いや理念に心が動かされたと紹介。
- 風景街道の大切な共通点は、市町村の境界を飛び越えて活動している点、道路に限らず様々な団体と連携している点であり、20年間の積み重ねの素晴らしさがある。
- 皆様のお力をさらに結集して、日本各地を元気に、美しくしていくという観点が重要。



※NPO法人日本風景街道コミュニティは、日本風景街道の登録団体と参加する活動主体の自立と活動の充実・発展に寄与し、また、登録団体や活動団体の連携を促進し、日本風景街道の全国拡大、質の向上、運動の継続を図り、地域活性化に資することを目的として活動しております。

新ルート「ありあけ海道～トレジャーロード～」の登録

- 九州では、「7県7色もまとめれば、光り輝く虹となる」をスローガンとして目指しているのは、各ルートをつないだ九州一周の一筆書き。
- 日本一の干満差を誇る広大な干潟、ムツゴロウやシチメンソウなどの生態系、全身泥まみれになり童心に返れる鹿島ガタリンピックなど、五感で味わって欲しいたくさんの魅力、こだわりの資源。
- これからは、天草や島原との連携による広域構想への貢献、横断的な連携による地域価値の最大化、保全活動と連携した環境教育やエコツーリズムのフィールドとしての地域づくりを推進。

ありあけ海道～トレジャーロード～の活動内容

- 活動方針
 - 有明海沿岸の魅力を発信したい

満潮時の穏やかな海、干潮時に見える幻想的な干潟の風景の中で、ムツゴロウなどの生物やシチメンソウなど、地域特有の風土が形成されています。私たちは、風景街道としてパートナーシップ組織と連携し、この有明海沿岸地域の魅力を発信します。
 - 地域のこだわりを見てもらいたい

風景街道の地域では、有明海の干潟に関連した文化や資源等が数多くあり、まち並みにも地域の色が出ています。私たちは、この文化・資源を大切に、地域に合った沿道景観や美化等に取り組み、まち並みと一体となった人との関わりを感じる道を創りたいと思います。
- 主な活動
 - 清掃(海中島居)
 - 干潟体験
 - サイクルイベント
 - スイートコーン祭り
 - 幸せ伝言板設置
 - ムツゴロウ王国声刈夏祭り
 - 清掃(シチメンソウ)
 - 観光PR

NPO法人日本風景街道コミュニティ 白井理事

能登半島絶景海道の創造的復興に向けた基本方針の紹介

- 「能登の魅力を『ぐるっと感動!』」 滞在型観光に役立つ 空飛ぶクルマの拠点整備を通じて、災害時には物資輸送や避難にも活用できる、災害にも強い能登半島づくり。
- 「人が集まる『道の駅』へ」 地域の歴史や文化に出会える魅力的な道の駅を整備して、震災メモリアルやAI技術による多言語案内・語り部のほか、自動運転サービス拠点の機能も持たせ、ドローンや空飛ぶクルマを含むいろいろな交通手段の結節点として、地域の賑わいを創出。
- 「じてんしゃ旅、ふたたび」 能登半島絶景海道をここにしかないサイクリングエリアとして整備し、自動車も自転車も、安全で快適に走れる道路空間を整備するとともに、海外の旅行会社やインフルエンサーを招いて、世界中のサイクリングライダーに能登の魅力を発信。
- 「風景街道がつむぐ絆を未来へ」 風景街道に込められた想いを次の世代へと着実につないでいくため、観光地域づくり法人(DMO)やスタートアップ企業など、地域のさまざまな関係者を巻き込みながら進める、魅力的な風景街道づくり。
- 最後に、奥能登絶景海道2026年カレンダーが紹介され、継続的な支援を呼び掛け。



能登半島絶景海道の創造的復興に向けた基本方針
～ぐるっと感動 まるごと能登!～

国道249号や県道などの能登半島沿岸部を通る道路について、滞在型観光の促進・「道の駅」の集客強化・サイクルツーリズムの活性化・魅力ある風景街道の創出などにより、国内外から人が集まる絶景海道を目指します。

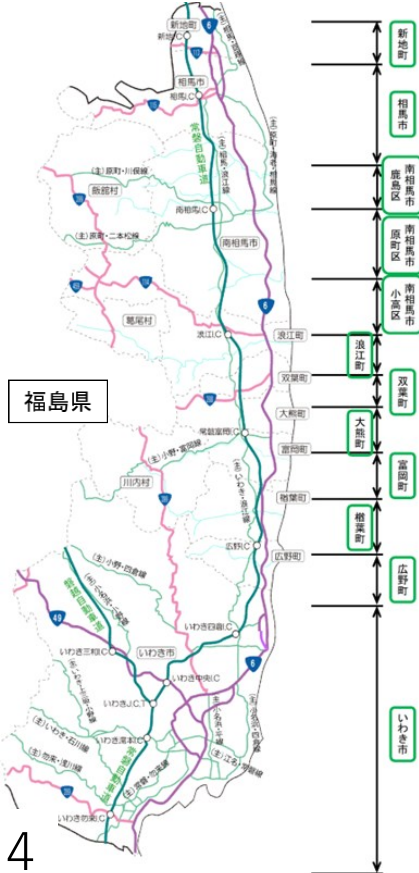
- 能登の魅力を「ぐるっと感動!」
能登の絶景、豊かな自然、伝統ある祭礼や技術など魅力たっぷりな能登。能登ならではの地理的な特徴を生かし、世界中から能登をゆくりと堪能してもらおう滞在型観光の促進を目指します。
- 人が集まる「道の駅」へ
道の目的から地域づくりの拠点へと進化させる「道の駅」。観光拠点としての整備や特産品の販売に加え、地域の賑わいに貢献するサービス提供など、観光客と地域の交流の場をつくり出します。
- じてんしゃ旅、ふたたび
自転車が快適に走れる環境づくりに加え、震災で壊れたサイクリングイベントへの支援を通じて、能登の魅力を国内・海外に発信し、サイクルツーリズムを盛り上げます。
- 風景街道がつむぐ絆を未来へ
能登の浜から人と風景をつなぐ風景街道。魅力ある風景や震災を活用した観光コンテンツの充実などを進めて地域で活動する様々な団体と交流・関係人口をつなぐ道づくりを進めます。

「奥能登絶景海道」の取り組み

- 能登半島地震の発生時の体験と、風光明媚な「奥能登絶景海道」の誕生の経緯と紹介。
- タオルやカバンの販売などで認知度を上げてきたが、収益確保には課題あり。
- ツアーのために震災前から整備していたヘリコプターとヘリポートを、地震発生時には自身の経営する 宿からの避難者のために用いたことがきっかけで、今後は観光と防災の両面でヘリコプターやドローンの活用を着想。
- 地震で崩れた土砂を使って整備する、ビュースポットを兼ねた新しい防波堤道路やドローンポートのある空の駅と道の駅を連携させたビジョン。



福島県浜通り地域・国道6号位置図



取組紹介「ふくしま浜街道ハッピーロード」

- 被災地と全国、故郷を離れて暮らす人々の絆をつなぐ「桜プロジェクト」は、中高生を主役とし、ボランティア植樹から開始。
- 3市7町の国道・県道163km区間に14,000本以上を植樹し、県外参加者を含む清掃ウォーキングイベントも開催。
- プロジェクト10周年を記念して、これまでの感謝と20年後に向けた希望を盛り込んだPR動画を、中学生、高校生、大学生が作成。冊子「SAKURA STORY」を作成。英語版も作成し海外にも発信。



取組紹介「よりみち街道『中越』」

- 中越地震発生時、ボランティア受入れの経験を通じて、地域の魅力の再発見につながった経験。復興やまちづくりに関するアイデアをいただいたが、風景街道の活動は10年間ほど停滞していた時期を経て、令和5年度より再稼働。
- 現在の活動の柱は、遊びながら学べる防災(あそ防)を通じた次世代への中越大震災の記憶の伝承。防災ピクニック、防災キャンプ、地元中学生が震央地を訪れる震災メモリアル遠足等の活動を実施。
- 今後の課題は、震災伝承活動の継続、活動の認知拡大、新たな魅力の創出。



田原市

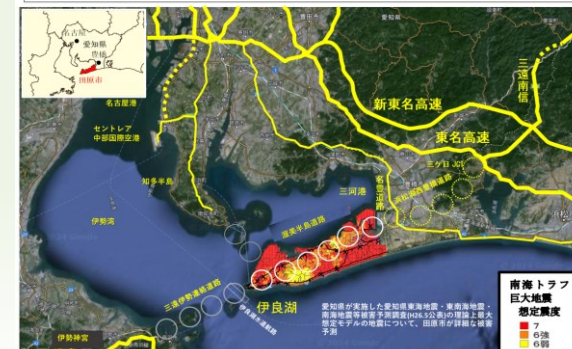
話題提供「渥美半島菜の花浪漫街道」

- 清掃や草刈り、花壇管理のほか、遊休農地での菜の花づくり、なたね油の販売や小学校の環境学習など循環型のまちづくりを推進。
- 南海トラフ地震に備え、渥美半島は道路寸断による住民や観光客の長期孤立リスクがあるため、風景街道の住民ネットワークを活用した中間支援組織の事前準備などの体制づくりを検討中。



渥美半島が抱える防災面の課題

○能登半島地震 (R6.1.1発生) 踏まえ、半島振興法において、「半島防災」の重要性が明確化されるとともに、南海トラフ地震の被害想定見直しが行われ、30年以内に発生する確率が60~90%程度以上に修正 (R7.9) されました。そのため、渥美半島が抱える防災面の課題に早期に対応する必要があります。



NPO法人日本風景街道コミュニティの石田代表理事の進行で、意見交換を行いました。
その結果、主に

- ①風景街道での活動の継続、次世代への継承に関するご意見
- ②「日本風景街道公式ホームページ」の改善に関するご意見

が挙げられました。



①風景街道での活動の継続、次世代への継承に関するご意見

- 次世代に向けた被災経験の伝え方や発信の仕方、郷土愛の育み方、地元アイデンティティへのまなざしの向け方などの重要性のほか、仲間づくりや一体感の形成におけるアイデア、大きな構想に向けて小さなことから取り組むアプローチについて、様々なご意見をいただきました。
- その中で、ふくしまハッピーロードで取り決めている高校生たちとの2つの約束ごととして、「自分のアイデアは投げ出さずに、責任をもってやり遂げること」、「親御さんとの間で、こちらのルールに同意いただくこと」が紹介されました。

②「日本風景街道公式ホームページ」の改善に関するご意見

- 上のご意見①の具体的な解決策として、日本風景街道の公式ホームページに、新たに、各ルートでの取組事例やノウハウに関してまとめられた既往資料(今回の会議などで発表に使われた資料など)を、誰もがみられるように集約・公開するアイデアが提案されました。
- 情報発信にあたっては、大人向け／子ども向けにアプローチの入口を分ける工夫や、より詳しく知りたい方のために連絡窓口も紹介する配慮などが提案されました。
- 「風景街道とは何か」ということについて、できるだけ易しい表現での説明と具体的な活動の様子の写真を示しながら、ホームページをのぞいた方が「そういう活動に参加してみたい」「この風景街道に行ってみたい」という気持ちになるような工夫が欲しい、さらには、今日のテーマでもある「防災」に関する取組については、防災道の駅の情報発信コーナーでも全国の取組を紹介して、道の駅と日本風景街道を防災という観点でつなげてほしい、というご意見をいただきました。

講評

最後に、NPO法人日本風景街道コミュニティの石田代表理事より、総括をいただきました。

- 防災と風景街道というテーマの今回、次世代への気持ちのつながりという観点で、災害発生後に復旧や復興で「ビルド・バック・ベター」（単に元に戻すのではなく、より良い地域にする）の意味で、福島と中越の発表はとても刺激的であった。
- 実際、復旧の公共事業は元に戻すのが原則なので難しいが、そこに向けてどうしていくかが今問われている。渥美半島菜の花浪漫街道の話題提供は、災害が起きる前に防災にいかに向き合うかという点で、どの発表もみんなですべて学べる素晴らしい内容であった。
- 非常に良いキーワードもいただいた。「子どもとも対等に活動をする、お話する、現場できちんと体感してもらおう、そういう気持ちが伝わっている」「責任をもってもらう覚悟を持つ」、その反面で「子どもたちのこと、可能性を信じる」ことは、仲間の輪を広げていく上で非常に大事。
- 能登半島での取組を半島全体に広げて、復興の大きな推進力にしようという、力強く、大きな夢のある発表であった。特に嬉しかったのは、芸術祭を4市5町に拡げ、その中心に風景街道を置いてつなぎ合わせていくんだ、という構想が着実に進んでいること。
- 皆さんの取組、災害に対する危機感や試みを、ホームページで情報共有できるようにしてはいかがか、という提案もあった。重要なのは、人の気持ちや信念をどのように伝えるか、ということ。



道路局 田中交通安全対策分析官

- 防災において、インフラの復旧だけではなく、出来上がった道が人と人をつなげ、生活や生業の復興につなげることが大事。その意味で、風景街道は、人のつながりを生み、地域を支える大切な装置。
- 2027年の20周年に向けて、皆さんの活動がより発展するよう、国としても取り組みを推進。





「第16回 日本風景街道大学 宮崎本校」 参加報告

続けて、今年1月に開催された「第16回日本風景街道大学 宮崎本校」の様をお知らせいたします。

日本風景街道は、平成22年10月に宮崎市で開校してから毎年開催されており、貴重な全国交流の場となっています。

また、平成24年10月に、群馬県嬭恋村で開催された「風景街道サミット in あさま」をきっかけとして、分校が各地で開催されています。

開催概要

●今回のテーマ

「～暮らしと生業を支え、移住・定住を呼び込む“みち”の力～

風景街道がつむぐ『住んでよし、訪れてよし』の地域価値創造

- 風景街道と地域生活圏のあり方、観光の視点から考える地域振興、宮崎での様々な取組などについて、全国の風景街道関係者が参加し、活発な意見交換も行われ、交流を深めました。また、参加者は、宮崎の風景街道の取組そのものを見て、体験していただくことを目的として、エクスカーションを開催しました。



カリキュラム1日目 (座学 @ 宮崎大学 創立330記念交流会館)

- 初めに、NPO法人日本風景街道コミュニティ代表理事の石田東生氏より、「風景街道と地域生活圏」として話題提供をいただきました。話題提供においては、直面するさまざまな日本の危機に触れ、「地域が元気になる＝風景が良くなる」という点で風景街道の取組の再認識とこれからの新たな展開、また「気がついたものの責任」「出来るものの責任」について述べられました。また、イタリアのテリトリー戦略視察の様子についても、ご紹介をいただきました。
- 次に、国土交通省 道路局 道路交通管理課の安部課長より、「～道と交通の役割～観光の視点から地域振興を考える」として話題提供をいただきました。話題提供においては、「観光をとりまく現状」「地方への誘客」「アシの確保」について、実際のデータや各地の事例を元にご紹介をいただくとともに、「宮崎の観光の更なるチャレンジ」について考察が述べられました。
- また、熊本大学の田中准教授より、「風景街道を『自分ごと』として再構築すると、地域の誰もが、well-beingを実感できる」として話題提供をいただきました。話題提供においては、「熊本版文化的処方」「水俣高校の探究活動（新規ルート「しらぬい風景街道」の探究学習）」「『MIZBERING』から『はしふき』へ誰もが『自分ごと』と思える場づくり」「『まちづくり』としてインフラを設える一づくり、つかい続ける一」という構成で、地元熊本での取組についてご紹介をいただきました。

カリキュラム2日目 (座学 @ 宮崎大学 創立330記念交流会館)

- 初めに、国土交通省 宮崎河川国道事務所 大嶋所長より、「日南海岸の未来に向けて～動く・食べる・観る・知る・守る。多様な楽しみを支える“みち”～」として、話題提供をいただきました。「日南海岸の魅力」「道路法改正などの様々な背景」「今後の日南ツーリズム検討の方向性」についてご紹介をいただきました。
- 次に、株式会社高千穂ムラたびの飯干代表取締役より、「世界と繋がる新しい農村ビジネスの視点と地域づくり」として、話題提供をいただきました。「ムラまるごと エコミュージアム構想」「世界と繋がることと農村の持続可能性」についてご紹介をいただきました。
- 続いて、有限会社レジェンドの小椋代表より、「日南海岸から始まる、日本のインバウンド観光と地域の新たな可能性」として、話題提供をいただきました。「日南海岸の魅力」やご自身の取組や思いについて、ご紹介をいただきました。
- また、宮崎大学の根岸教授より、「風景街道の可能性」として、話題提供をいただきました。「『みちづくし in のべおか 2025』の開催概要」「延岡開催の意義と高千穂・延岡・日向の分科会開催」「ほこみち社会実験と山下新天街における交流集会」「道守活動と道の駅との連携」「防災中間支援組織と道守・道の駅」「コミュニティ財団の設立と地域づくり・防災」について、ご紹介をいただきました。
- 以上、1～2日目の話題提供などを踏まえ、トークセッション・フロアセッションが行われ、活発な議論が交わされました。
- 最後に、NPO法人日本風景街道コミュニティ代表理事の石田東生氏より、講評をいただきました。
「2日間にわたって、紹介されたさまざまな話題をAIがまとめてくれた。AIは便利であるが、痛みを分かっていないし、エネルギー消費が莫大である。一方、お釈迦様もおっしゃっていたが、この世の中は縁でできている。この世のすべてが縁でつながっていること、人間のもつ素晴らしさ、私たち人間の存在は何か、地域とは何か、そういった点は、風景街道の本質と通じると思う」

3日目 (エクスカージョン)

●尾戸の口棚田展望所



●天岩戸神社



●神楽の館



●川登棚田展望所





新規ルート「しらぬひ風景海道」

【登録日：令和8年3月11日】
【全国148ルート目】

■新規ルートの概要

活動範囲

熊本県南に位置する4市3町からなる広域ルート
(宇土市、宇城市、八代市、水俣市、
氷川町、芦北町、津奈木町)

中心となる道路

国道3号、国道57号、国道266号

地域資源

宇土・宇城地域、
八代地域、
芦北・水俣地域
に複数有り



実施予定の活動内容

①地域活性化

地域のつながり、
地域とのつながり、をつくる

②観光振興

たのしくかたる
仕かけをつくる

③美しい国土景観の形成

美しいしらぬひの
風景をつくる

次世代育成・元気な地域づくり



水俣高校の生徒と連携し探求学習による観光のモデルコースを作成

フットパス・ウォーキング



フットパスコースを活用し、地域の魅力を発信

美化・清掃活動



国道3号での花植・清掃活動の様子



宇土・宇城地域

- ・ 田園風景と不知火海の自然景観
- ・ 温暖な気候を利用した花き栽培や果樹栽培が盛ん
- ・ 三角西港、水島などの観光スポットが点在

八代地域

- ・ 八代平野で営まれる農業
- ・ 高速道路・新幹線・国際貿易港を有する利便性を活かした工業が盛ん
- ・ 日奈久温泉などの観光スポットが点在

芦北・水俣地域

- ・ 不知火海で獲れる太刀魚などの新鮮な海産物や、デコポン等の柑橘が有名
- ・ 農業では環境に配慮した栽培方法を選択



新規ルート「遠州三みち風景街道」

【登録日：令和8年3月12日】

【全国149ルート目】

■新規ルートの概要

活動範囲

浜松市、磐田市、掛川市、袋井市、湖西市、御前崎市、菊川市、牧之原市、森町

中心となる道路

国道1号、国道150号、国道152号、国道362号、県道37号

地域資源

- 旧東海道8宿2峠4城下町：
旧東海道の宿場街並み、旧東海道の松並木、
- 太平洋岸自転車道NCR：
6港（相良港、御前崎港、福田漁港、舞阪漁港、浜名港、新居漁港）、遠州灘と浜名湖の風景、沿道の田園風景
- 遠州塩の道：秋葉街道沿いの神社仏閣、沿道風景、天竜川流域の森林風景、山村の暮らしの風景、茶畑風景など



旧東海道の松並木



茶畑



御前崎ロングビーチ



塩の道・秋葉山常夜灯

実施予定の活動内容

観光・誘客による活性化

サイクルツーリズムおよびウォーキングツーリズムの推進

地域間交流の促進

全国各地の日本風景街道同士の人、モノ（物産）、情報の交流

風景の価値を高める活動

地域との協働による清掃や美化活動など